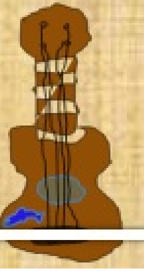
考え ウ シ

第二十一回『ぼくたちは何だかすべて忘れてしまうね』と「いじめられていたら、とにかく逃げなさい」〜後編〜

毒を盛って
毒を喰らわば
アレまで

お願いします

弦楽器イルカ  ＋友人

第二十一回　『ぼくたちは何だかすべて忘れてしまうね』と「いじめられていたら、とにかく逃げなさい」後編〜G　から　Uへ〜

　今回はゲーム企画にも辿り着くし、道草も浴びるほど食んで行くよ。
　まず誰でも読める公的な資料で心底がっかりしたのから、そのまま引用する。（ちょっと本気で腹をたてたから、Uが笑い飛ばすのを期待してる。気にすんな、考え過ぎだって）

甲状腺検査に関する中間取りまとめ（部会長取りまとめ案）
平成27 年3 月福島県県民健康調査検討委員会甲状腺検査評価部会
　今後、仮に被曝の影響で甲状腺がんが発生するとして、どういうデータ（分析）によってそれが確認できるのか、裏返していえば、どういうデータ（分析）が現れなければ「影響はなかった」と判断できるのか、その点の「考え方」を予め示す必要がある。これが全くないと、「後付けで」評価がなされるかもしれないとの疑念をいたずらに招いてしまうこととなる。

　俺ごとき素人でさえずっと「甲状腺ガンの数を調べるなら、例えば何人までが正常で何人からが異常なのか初めに概算して当然だし、しなきゃ後付けで言いたいことくらでも言える」って書き続けたけど、震災から4年以上経って（言い訳の準備が整った今）やっとその議論が「全くない」とこから始まるってことだ。クソだよ。俺好みじゃないけど、この金色のクソにたかるハエはたくさんいるんだろう。一、二、三、四年過ぎて「ワザトダロ！」ってオチだ。（今流行のネタだよ！）

　震災後、福島では定期的に御用学者たちが集まって会議してる。今どういう議論になってるか簡単に要約すると、国立がんセンターのデータと比べて甲状腺がんの発生率が60倍高いって東大教授が言ってる。これは事実だ。そしてその事実を基に、過剰に診療してるせいだ、って主張もしてる。
　でも、県立医大は過剰診療じゃないと言ってる。適切な検査・手術だと。
　じゃ、結論はどうなのかっていうと、「現時点で結論づけはできないが、放射線の影響とは考えにくい」「最終的に放射線の影響があるかどうか判断するには、最低でも10年はかかる」となる。

　ここで国語の出番だ。結局、この議論から導き出されるのはたった一つの事実だ。
　福島では甲状腺がんが60倍発生している。これだけ。
　理由が不明であれば、発覚してても公表する必要はない、これは汚染水が漏れた際の東電の見解だ。

福島で甲状腺がんが60倍発生していても、理由は不明だから放置してかまわない。これが国の見解だ。
だからこの会議の主役は国民じゃない。主役は国家経済だ。

ここで俺はこの国の新しい道徳を提示したい。
原発反対派も推進派も、被曝で国民に健康被害が出ることを良しとは思ってないだろう。だがそれは偽りの道徳だ。
「被曝で苦しめ」
あー、間違ったかも。「被曝を楽しめ」かな。まぁどっちも意味は一緒だよ。要は文句言うなってことだ。
それがこの国の新しい道徳だ。国民は経済のため被曝に悩んだり楽しんだりできれば早死にしたほうがいい。だってこの国の主役は経済なんだから。原発が爆発して、被曝して、老人や子供がどんどん苦しんだり楽しんだり死んだりしていけば、国としては医療費の削減につながる可能性もあるかもしれない。経済が主役ならそれだって国是だ。我々はそういう国に生まれた事実を自覚し、覚悟し、生活する。それがお国のためってことだ。
だから「お国ばんざーい！」って人々は、欲しがりません死ぬまではつって、生活費削ってでも今以上税金納めて、体壊したり国から年金もらう高齢者になったら桜の下で腹切りするのも国是だろう。それが一番お国のためだよ、だって国の主役は経済なんだから。俺は絶対イヤだけどね。

さて、「ぷしゅー」っと頭に血がのぼったところで別な話題に行こう。
まず前編と全然タイトル違うんだけど、こんなウマシカ話なんてみんなもう忘れてるでしょって意味ね。これ、重要だと思うんだよ。
本や音楽、映画や新聞といった文化が儲からなくなったって言われて久しい。活字離れやダウンロード販売、レンタルやネットニュースがある今、それらの文化が右肩上がりで儲け続けるほうが確かにおかしいだろう。情報を昔より安価で得られるという消費者側のメリットと、安価すぎて採算取れないという発信者側のデメリットがあると思うんだが、これが「忘れる」ってことと実は深く結びついてると思った。
情報を発信する側はどんどん薄利多売になる。文化を立て続けに発信しなければならず、経費も考える時間も減って質にこだわれなくなり、スポンサーにもより媚びざるを得ないだろう。そうやって薄く大量生産される文化は結果的に、より薄く消費され早く忘れ去られる。
これで得するのは誰か。一つは権力を持つ者だ。権力者は情報の煙幕に守られて自分に有利な法律を淡々と通していける。

たとえば、格差社会というテーマがある。
俺は格差社会って言葉も定義が曖昧だから好きじゃない。「日本は飛び抜けた金持ちが少ない中流の国だ」とか、「いや子供6人中1人は貧困層だ」とかの議論が並行している。これはわかり

やすい物語に言葉が誤魔化されているからだ。
　まず議論すべきは、格差とはいったい何かを具体的に定義づける、わかりにくい物語の方だ。
　例えば原子力ムラの天下り管理職と、現場の下請け作業員との間に一体いくらの賃金格差があって、彼らがそれぞれどんな生い立ちで今の職業に就いて、職務内容、家族構成、学歴、抱えている悩み等を細かく調べ、そこにどんな種類の格差が存在するのか検証することだ。
　だがもちろんこの国から天下りがなくなることも、作業員のピンハネがなくなることもないだろう。だから格差がなくなることもないって結論はもう出てる。
　ついでに最近、某有名総研会社の統計が出てるんだが、割合としては以下のようになる。

　つまり、2割程の純金融資産3千万円以上の世帯が、国内の資産の6割程を保有しているそうだ。
　逆に8割程の3千万円未満の世帯は、国内の資産の4割程しか保有していないそうだ。もしこれを1千万円未満で区切れば、国内の資産の3割〜1割くらいしか保有してない感じだろう。（ちなみにアベノミクスで「古くからの資産家が株式等で儲かった」ってそこに解説あったよ）
　これを格差と呼ぶのかどうか定義がはっきり定まってないし、自分がどの立場にいるかで変わる話でもある。まぁ薄い大量消費の文化では、定義づけの議論はなされないで忘れ去られるだろう。

　だから忘れ去られない、というのは今、あらゆる意味で脅威となる可能性がある。
　岡崎京子の『戦場のガールズ・ライフ』を買って少しずつ読んでるんだけど、この人の忘れ去られなさはなかなかだよ。そしてまた「いじめられていたら、とにかく逃げなさい」って2006年に鴻上尚史が書いた文章も再び話題になってる。それもすごいことだ。それについて少し書きたい。
　鴻上の文章は、今この瞬間いじめを苦にして死ぬ子を一人でも減らすのが目的で、生死の狭間にいる子供に向けた一対一の緊急メッセージだ。その子が死ななければ成功だから、関係ない第

三者があれこれ賛否言ってもあんま意味はない。それより自分だったらどの言葉で死を食い止めるのか、または死んでも別にいいのか、自身の言葉をさらす方がフェアだろう。
　そこで俺だったらどう書くかって話なんだが、鴻上の本や舞台で人生の踏み外し方を習った俺だし異論は特にない。ただいじめで苦しんでる子はそもそも「自分がいじめられっ子だと認めて逃げる」行為を不名誉と嫌がる可能性があるから、（「逃げろ」とか「遺書を書け」って言葉が持つインパクトの意味は非常にわかるけど）「周りより一足大人になって視野を広げよう」「イヤなことは大人に相談するのが一番良い抵抗」「痛みを避けるのは動物として当然の行為で、何ら恥じることはない」というような文言も付け足せばどうかな、とは思う。「友達とふざけてるだけだから、自分はいじめられっ子じゃない」と意地張って気づいたら死んでる子もいるだろう。（前にDVと被曝について書いたけど、いじめって言葉を被曝に入れ換えても大体意味は通じるだろう）

　さて、今回最後に書きたいのは、原発作業員の手記の件だ。これも何回か書いてるけど、改めてまとめときたい。
　戦争体験者や特攻隊員の記録に触れ、実際の戦争について学び、自分の身に置き換えて考えることは大変重要だと思う。その際、感情として「可哀想」と思ったり、戦争を憎んだり、個人として感謝や尊敬の念を抱くことは全く自由だし、制限できないはずだ。
　ただその先のこと、例えば特攻に意味はあったのか無駄死にだったのか、そもそも戦争に意味があったかなかったか、侵略か自衛か、「彼らが国を守ったから今の我々がいる」のか「国なんて守る必要はない」のか等の見解は、どれも一つの考え方であって、アイドルの人気がステマか本気かって議論と一緒で、一人一人の心の中でしか結論の出ない話だ。だいたい前線の兵士は使い捨て、偉い権力者だけ生き残る戦争に、正義も悪もない死は死だと俺は思う。
　なんでこんな話をするかと言えば、単なる一つの見解を絶対と信じ込み他者に無理強いするのは、単純に信仰だからだ。信仰でなく見解ならば、俺とUがぶつかって溝の深さを毎度確かめてるみたいに、考えて合意したり距離を測ることも原則的に可能だろう。だが信仰には原則的に議論の余地がない。我々は常に正しく、敵は常に悪だ。そしてこの世界に正しい信仰はもちろん無数にあるから、争いはやむことがない。

　たとえば愛国心の教育に必要なのは、自分にとって国を愛する心が必要なのかどうか、考えることだ。自分で考えて必要だと結論が出れば、それこそが愛国心だ。しかし自分で考えて必要ではないと結論が出れば、そこに愛国心を無理強いするのは単なる信仰だ。
　もちろん別に信仰が悪いというワケではない、善悪というのは便宜的な概念だし。ただ信仰を無理強いするのは一般的に理不尽だし、無自覚な押し付けであればなおタチが悪い。

　さて、特攻隊員の手記から今の我々が学ぶことは多い。では原発作業員の手記はどうだろうか。
　俺は今までメディアの原発作業員に関する特集はできるだけチェックしてきたけど、ほとんど

の作業員が「会社に口止めされてるから」取材を断ってる様子も紹介されてた。でも、全員じゃない。

　今までずっと「たった一人か二人」のマンガ家やブロガーは情報発信を許されてる。しかもたくさんの読者がいて世間に望まれてる情報なのに、なぜか公開できる人は限られてる。顔出しのドキュメンタリーもいくつか観たけど、所詮十数人しかメディアで声は伝えられていない。

　マンガやブログに書いている程度の内容なら、今まで作業に従事した何万人だって本人が望むなら公開してもいいはずだ。つまり、彼らの生い立ちや悩み、待遇や現状など、前線で戦っている人たちの声を今すぐ、文化は集める必要があると俺は思う。先の大戦みたいに、終わってから美談にしても遅いからだ。

　そして前から言ってるけど、これは春樹がインタビューするのが一番適任だろう。間違いない。国民全員が「被曝に文句言うな」って新しい道徳の虜になっている以上、一丸となって彼にノーベル平和賞を取らせなきゃ我々は犬死にだ。

　というワケで毎夜、枕元にでっかいトランシーバー置いて春樹に電波送ってんだけど、俺のドラゲナイはやっぱ届いてないんだろうね。グラチュレイションが足りないんだな、きっと。

　過去には、反社会的勢力が県内県外から原発や除染労働者を不法に派遣して逮捕されたニュースを観た。原発の作業員は今や県民が9割で、県外の作業員はほとんどいないってマンガ家のインタビューも読んだ。

　今、県内の作業員が9割になってるってことは、情報が県内で止まり県外に出にくくなってると考えるのが自然だ。

　そして原発周辺地域から人を避難させたくないのは、今後作業員にさせたいから、または作業員の生活を支える集落を確保したいからという思惑があると考えるのも自然だろう。そっから逆算して、被曝は大したことないから避難は必要ない、という政策が生まれてると考えるのも自然だと思う。この国の主役は経済だしね。

　あと最後に、原発の推進・反対派にはもう一つ別な言葉の定義づけが必要だと思う。たとえば単なる「ベジタリアン」とは別に、厳格なベジタリアンを区別して「ヴィーガン」って呼ぶそうだけど、当人たちも区別された方が生きやすいみたいだ。宗教も（私はムチより縛り派ですとか）派閥がいろいろあるよね。

　とにかく原子力と名の付く物すべてに反対の人は「反核ヴィーガン」とかなんとか名乗ったほうがいい。逆に原発も核保有も絶対推進って人は「原発真理教」とか名乗ったらいい。つまり信仰者は自分が常に正しくて議論が無意味だから、「議論の余地がある派」と分けたほうが整理しやすいってことだ。

　やっと書き切った！

　さて、というワケで今回はこんな感じ。どうかな？

「はみだしウマシカさん　その８」

　やっとゲームの話だ！
　今俺が国民に追体験してほしいと思うゲーム企画は、以下の3点です。

①自分の子供が甲状腺ガンだと告知されるゲーム
②原発作業員としてピンハネされるゲーム
③政治家として裏金を稼ぎ、国民を健忘症にさせるゲーム

　マジで。真剣でも本気でもいいからマジで作ってほしい。シナリオは俺が書こう。
　そこにどんだけの痛みと歪みがあるか、ゲームとして追体験したら子供にもわかると思う。そう、絵本でもいいよね。犬の殺処分の本もすごい人気だし早速購入したけど、こういう考えさせる問題提起は本当にすごいと思う。文化にはそういう力があるよ。もっと行使しないとね。

奥付

考えるウマシカ～第二十一回　『ぼくたちは何だかすべて忘れてしまうね』と「いじめられていたら、とにかく逃げなさい」 後編～

http://p.booklog.jp/book/96804

著者：弦楽器イルカ
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/gengakkiiruka/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/96804

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/96804

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ